様式１

# 【港南区】令和８年第３回区づくり推進横浜市会議員会議
# 議事録

| | |
|---|---|
| 開催日時 | 令和８年９月３日（木）　午前９時55分～午後11時45分 |
| 場　　所 | 港南区役所６階　会議室 |
| 出 席 者 | 【座長】　山田桂一郎議員<br>【出席議員：４名】瀬之間康浩議員、安西英俊議員、田野井一雄議員、みわ智恵美議員<br>【港南区：30名】　栗原敏也区長、大塚貴司副区長、佐藤修一福祉保健センター長、中山陽子福祉保健センター担当部長、佐藤智也港南土木事務所長、猪狩正三港南消防署長ほか関係職員 |
| 議　　題 | １　令和７年度個性ある区づくり推進費の執行実績（加藤総務課長説明）<br>２　令和８年度個性ある区づくり推進費の執行状況（加藤総務課長説明）<br>３　令和９年度個性ある区づくり推進費予算編成にあたって（栗原区長説明） |
| 発 言 の 要　　旨 | みわ議員：災害時も地域で見守り推進事業に関連して、災害時要援護者支援にかかる「障害別リーフレット」について伺いたい。<br>令和７年度に港南区聴覚障害者協会との意見交換を重ねながら作成されたリーフレットが５月から配布されているとのことだが、災害時に必要な支援につなげるためには、まず当事者の方々にリーフレットを配布し、活用していただくことが重要である。そこで、現在の配布状況や、配布を通じて寄せられた意見について伺いたい。<br><br>近藤福祉保健課長：聴覚障害者向けリーフレットは港南区聴覚障害者協会をはじめ、障害者団体、港南区社会福祉協議会、横浜ラポールなどへ配布するとともに、区役所窓口やウェブページでも周知を行っており、令和８年８月末時点で525部配布している。当事者の方々からは、災害時の困りごとや周囲に求める配慮が分かりやすく整理されており、日頃の備えを考えるきっかけになったとの声 |

| | |
|---|---|
| | をいただいたほか、避難先や緊急連絡先、必要な配慮等を記入できるため、自身に必要な支援内容を支援者等へ伝えるためのツールとして活用できるとの声もいただいている。今後もより多くの方に活用していただけるよう、関係団体等と連携しながら周知を進めていく。<br><br>みわ議員：525部配布を行ったとのことだが、この配布部数についてはどのように評価しているか。<br><br>近藤福祉保健課長：先ほど申し上げたほか、自立支援協議会や防災懇談会の委員等にも幅広く配布を行っている。今後も要望があった場合は重ねて配布していきたいと考えている。<br><br>みわ議員：引き続き関係団体と連携しながら、周知と活用の促進に取り組んでいただきたい。<br>　今年度港南区では、聴覚障害者への取組に続き、視覚障害者団体等へのヒアリングを開始し、視覚障害のある方への効果的な情報提供のあり方について検討を進めていると伺った。視覚障害のある方の中には、全盲の方や弱視の方、先天的に障害のある方や中途失明された方など、様々な状況の方がいる。前回の区づくり推進市会議員会議でも確認したが、それぞれの状況に応じた情報提供の方法を検討していくことが重要であると考える。<br>　そこで、視覚障害者団体等へのヒアリングでこれまでどのような意見が寄せられ、今後の情報発信やリーフレット作成にどのように反映していくのか伺いたい。<br><br>松月高齢・障害支援課長：港南区視覚障害者福祉協会の会員である防災懇談会委員との意見交換を６月から開始している。これまでのヒアリングでは、視覚障害の状況によって必要な支援や情報の受け取り方が異なるため、一人ひとりの障害特性や情報取得方法に応じて音声版や点字、ウェブページでの配信などそれぞれの方が利用しやすい手段を選択できる情報発信が重要であるとのご意見をいただいている。また、避難所での生活に不安を感じる方もいる |

| | |
|---|---|
| | ことから、自宅で安全に過ごすための備えや在宅避難に関する情報をより充実させてほしいとのご要望をいただいている。こうしたご意見を踏まえ、視覚障害のある方が必要な情報を確実に取得できるよう、ウェブページの掲載内容や情報提供の方法についても今後検討を進めていく。<br><br>みわ議員：障害のある方々が地域で安心して避難生活を送れるよう、周囲の理解を深めることが重要である。地域全体で理解を深めていくため、区としてどのように取り組むか伺いたい。<br><br>近藤福祉保健課長：当事者への情報提供に加え、地域住民や支援者の理解を深めることが重要であると認識している。そのため、聴覚障害者向けリーフレットや今後作成を検討している視覚障害者向けの情報発信ツールを活用しながら、地域防災拠点運営委員会連絡協議会や地域防災拠点訓練、防災啓発事業等の機会を捉え、障害特性や必要な配慮について理解を深めていただけるよう取り組む。また、障害当事者や関係団体との意見交換などを通して、平常時から顔の見える関係づくりを進め、地域全体で支え合える環境づくりを推進していく。<br><br>みわ議員：要援護者支援への取組はすべての区民の皆様が安心できるまちづくりに直結することであり、我々も力を尽くさなければならないと考えているので引き続きお願いしたい。<br>次に、災害に強いまちづくり事業について伺いたい。<br>様々な人々が関わり、地域主体の協働で行う訓練の推進について、具体的にどのような方々が訓練に参加しているのか。<br><br>加藤総務課長：訓練は地域を中心に構成された地域防災拠点運営委員会が主体となり企画・運営いただいている。その中で、防災資機材の取り扱いを指導する防災ライセンスリーダーや、災害時の情報伝達に協力いただくアマチュア無線協会、区障害者団体連絡会など様々な方々の参加・協力のもと訓練が行われている。地域防災拠点には高齢者や障害のある方、外国人など多様な避難者が想定さ |

| | |
|---|---|
| | れるため、平常時から地域住民をはじめ関係団体や事業者が訓練に参加し、それぞれの視点や経験を共有することは、誰もが安心して利用できる避難所運営につながるものと認識している。引き続き多様な参加者による訓練を推進し、様々な視点が反映された避難所運営につなげていく。<br><br>みわ議員：多様な方々が避難することが想定されるが、それに対応するために必要な項目としてどのようなものが考えられるか伺いたい。<br><br>加藤総務課長：高齢者や障害のある方、外国人の方など、様々な方に対応できるよう、必要な機材等を用意する必要があると考えている。<br><br>みわ議員：熊本地震では車中泊を選択された方が多く見受けられた。本市においても、小さなお子さんやペットと暮らしている方など車中泊について検討される方が多いと想定される。車中泊を想定して準備することは災害関連死を防ぐことにも直結すると考えるが、車中泊の場所の確保や避難者への対応について、区としてどのようなことを想定しているのか、区長に伺いたい。<br><br>栗原区長：10年前に起きた熊本地震、東日本大震災などこれまでの大きな震災などの状況を見ると、お子さま、障害のある方、高齢者の方、女性などのプライバシーの確保ができることや、ペットを飼っている方は家族同様と認識されているペットの世話ができることなど様々な事情から、港南区においても車中泊避難を選択される方が一定数いると見込んで検討する必要がある。 現在、防災危機管理統括本部と連携し、民間の駐車場や公園の駐車場など一定のスペースを活用した車中泊の避難場所確保に向けた調整を行うとともに、エコノミークラス症候群などの車中泊に伴う健康リスクに対し予防効果のある血栓防止用のストッキングなどの備蓄に取り組んでいる。<br>　引き続き、車中泊避難者にも必要な物資や災害情報が届く体制づくりを進めるとともに、場所の確保にあたっては民間事業者の協力も重要であるので、事業者との連携を図りながら今後も対応していきたい。 |

| | |
|---|---|
| | みわ議員：車中泊や在宅など、区民の皆様は様々な場所で避難される。車中泊避難をされる方に対しては、情報が届きやすくなるよう車中泊避難場所が明確になっていることが大切であり、災害関連死や健康リスクへの対策として、そういった方に届くよう適切な情報発信を行うことが重要である。<br>　最後に、大規模災害に備えて港南区としてどのような取組を推進していきたいと考えているか伺いたい。<br><br>栗原区長：大震災はいつ発生するか分からない。防災・減災の取組を着実に進めるためには、特に大規模震災の時に大きな効果を発揮する共助が重要となる。その共助を進めるためには、地域のつながりや支えあいを日頃から育んでいくことが大切である。９月６日から各地域で地域防災拠点訓練が行われる。すべての拠点において港南区独自の取組である「港南災害時協働隊」が参加する予定で、現在登録いただいている全188の企業・事業所のうち68社、延べ103社が訓練に参加していただく予定となっている。協働隊には、様々な業種の企業・事業所から登録をいただいており、トイレ環境の確保、歯科医院による口腔ケアなど、避難生活の環境改善や健康維持につながる協力の申出もいただいていることから、多様な支援が避難所生活の質を高め、結果として災害関連死を防ぐことにつながっていくと考えている。<br>　本震では自助によって命を守ることができた区民の方々が、その後の避難所生活を送る中で命を落としてしまうという災害関連死がないように、平時から地域と事業所の顔の見える関係となっていることが重要である。訓練を通じて地域と事業所のつながりを更に強固なものとし、避難所生活を支える体制づくりを進め、防災・減災対策につなげていきたいと考えている。<br><br>みわ議員：一度救われた命が災害関連死によって失われることがないよう、取組を進めていただきたい。<br>　また、 プライバシーの確保など安心できる避難生活にはどのようなことが必要なのか、大きな災害が起きている今しっかり学び、活かしていきたいと考えているので引き続きお願いしたい。 |

| | |
|---|---|
| | 瀬之間議員：障害者いきいき生活応援事業に関連して、障害者自主製品販売促進事業について伺いたい。こうなん来夢は区内の障害者施設が連携し、自主製品の販売などを通じて地域との交流を進めている団体であると伺っている。７月に区役所で開催された「こうなん来夢ミニマルシェ」では、各事業所が製作した自主製品の合同販売会が行われたとのことだが、「こうなん来夢ミニマルシェ」をはじめとした販売会を実施する狙いや効果について伺いたい。<br><br>松月高齢・障害支援課長：販売会は自主製品の売上向上や障害のある方が受け取る工賃向上につながるとともに、施設利用者の方が区民の皆様と直接交流できる貴重な機会となっている。お客様から感謝や励ましの言葉を直接いただくことで働く喜びや達成感を感じることができ、施設利用者の方からは「楽しかった」「また頑張ろう」などのお声をいただいている。来場された方にとっても障害のある方の活動や働く姿に触れていただく機会となり、より身近で障害への理解や関心を深めていただくきっかけになると考えている。こうした販売会が障害のある方の活躍の場であるとともに、地域とのつながりを広げる重要な取組であると認識しており、今後もこうなん来夢の活動を支援していきたい。<br><br>瀬之間議員：障害者施設の自主製品は魅力的な商品も多くあるが、まだ十分に区民へ知られていない部分もあると考える。販売機会を増やしていくことは、施設利用者の収入向上だけでなく障害者施設の活動を区民に知っていただくことにもつながる。そこで、今後、自主製品の販路拡大に向けてどのように取り組んでいくのか伺いたい。<br><br>松月高齢・障害支援課長：高齢・障害支援課では、こうなん来夢作業部会や港南区作業所連絡会、健康福祉局などとも連携しながら、商業施設や医療機関など新たな販売場所の開拓を進めている。今年度から新たに港南台病院で販売開始しており、月２回実施しているパン・焼き菓子の販売は病院のスタッフの方に好評をいただいており、新たな販路として一定の可能性を感じている。今後も区内 |

| | |
|---|---|
| | の商業施設や企業等に対して販売会への協力を働きかけるとともに、区ホームページやSNSなどを活用した周知を進め、障害者施設の自主製品の販売促進につながるよう取り組んでいく。<br><br>瀬之間議員：引き続き、新たな販売場所の検討や、区民に向けた周知をお願いしたい。また、新規事業で自主製品開発支援としてアドバイザーの派遣を実施するとのことだが、どのような効果を期待しているのか伺いたい。<br><br>松月高齢・障害支援課長：10月には、革細工を始めた障害者施設と専門家とのマッチングを予定しており、新たな自主製品の開発や付加価値向上、販路拡大につながることを期待している。また、障害者施設職員が新商品開発やディスプレイ等販売に関する知識・ノウハウを習得することで、魅力ある製品づくりや販売力の向上にもつながると考えている。<br><br>瀬之間議員：こうした取組を通じて、障害者施設と専門事業者との連携が進み、自主製品の魅力向上や販路拡大が図られることで、障害のある方のやりがいや工賃向上につながるとともに、地域との交流や相互理解の促進に寄与することを期待している。<br>次に、子育て支援に関する事業について伺いたい。<br>保護者が子育てに必要な知識や関わり方を学び、安心して子育てできる環境づくりは重要であると考える。地域で子育て応援事業の関連で、育てにくさを感じる子育て支援事業において養育者向け講座を実施したとのことだが、講座の内容について伺いたい。<br><br>富岡こども家庭支援課長：第１回の講座は子育て体験講座「おやこ遊びで育つ心とからだ かかわり方がわかると子育てはもっと楽しくなる」として６月22日に区役所で実施し、10組20名の親子にご参加いただいた。対象は港南区在住の１歳６か月から３歳未満のお子さんと保護者で、講座では親子で体を動かす遊びを実際に体験していただいた。具体的には、「むすんでひらいて」などの童謡に合 |

| | |
|---|---|
| | わせたリズム遊びを実際に親子で行っていただき、その上で、親子で楽しく体を動かす遊びがこどもの心身の成長を促し、一緒に遊ぶことで人と関わる力を育てることができることを公認心理師が専門的な視野から説明を行った。また、講座では振り返りも行っており、その中で、こどもとのコミュニケーションの取り方やこどもへの望ましい声かけ、かんしゃくを起こした時のクールダウンの方法などについて、具体的なロールプレイを交えながらお伝えした。単に知識を学ぶだけではなく、保護者がこどもと一緒に体験しながら家庭でも実践しやすい関わり方を身につけていただくことを目的として実施した。<br><br>瀬之間議員：このように保護者が身近な場でこどもとの関わり方を学べる機会があるということは大変重要であると考える。<br>　一方で、こうした取組が参加者にどのように受け止められているのか、実際の子育てに役立つ内容となっているのかということも大切な視点であると考える。そこで、講座参加者の受け止め、評価について伺いたい。<br><br>富岡こども家庭支援課長：参加者アンケートでは、体験講座について「とても参考になった」「まあ参考になった」という回答がそれぞれ５名で、参加者全員から参考になったとの回答をいただいている。参加動機としては「子育てに悩んでいることがあるから」という方がほとんどで、言葉の遅れ、かんしゃく時の対応、父親であるパートナーとの子育て観の違いなど、日常の子育ての中の具体的な悩みを抱えて参加された方が多い。区こども家庭支援課としては、講座参加者から一定の満足度が得られ、家庭での実践にもつながる内容として受け止めていただけたと考えている。今後も保護者が子育ての悩みを一人で抱え込まず、地域の子育て支援機関と上手につながりながら安心して子育てできるよう、講座内容の充実を図るとともに、引き続き関係機関との連携を深めていきたい。 |

| | |
|---|---|
| | 瀬之間議員：参加者アンケートからも、講座が保護者の気づきや学びにつながり、家庭での実践にも結び付いていることがうかがえた。こうした保護者に寄り添う取組は大変重要であると考える。今後も多くの方に参加いただきながら、安心して子育てできる地域づくりに取り組んでいただきたい。<br>　こどもに向けた取組の観点で、最後に防災に関連して伺いたい。災害に強いまちづくり事業の説明において、防災関係についても区として子供に向けた取組を進めていると感じられた。子供たちが防災について学ぶことは、自らの命を守る力を身に付けるだけでなく、地域とのつながりや助け合いの大切さを知る機会にもなると考える。<br>　そこで、防災イベントや講話などを通じて子供たちが知識と体験を蓄積していくことで期待される点について、区長に伺いたい。<br><br>栗原区長：子どもたちはこれからの港南区を担う大事な存在であり、また、将来の地域防災の担い手としての活躍も期待される。被災地の事例を踏まえても、特に小学校高学年以降の子どもたちは、発災時に防災活動の場面において活躍し、地域を支える存在になる。５月に笹下中学校で実施した防災講話では、全校生徒約700人が、居住する地区で学年に関係なく自分の住んでいる地区ごとに分かれ、地域で活動している自治会、町内会の方々と一緒に講話を聞き、「発災時に自分たちができること」をテーマに地域の方々と意見交換を行い、共助の大切さについて学んだ。この様子はタウンニュースにも掲載され、笹下中学校の学区がある日下連合や笹下連合の方々からも好評の声をいただいている。こうした防災教育を通じて、自らの命を守る自助、地域で助け合う共助の意識醸成を図り、将来の地域防災を担う次世代の防災リーダーの育成につなげていきたいと考えている。引き続き、子どもたちの関心が高まるイベントや達成感を伴う防災授業などを通じて、防災に関する知識・経験がしっかりと蓄積されるよう取り組んでいきたい。 |

| | |
|---|---|
| | 瀬之間議員：発災時に自分で判断し、行動する力を子供たちが身に付けることは、子供たちの命を守ることに直結する。今後も様々な取組を区で実施していただきたい。<br><br>安西議員：８月に発生した千葉県での大雨や全国各地で豪雨による被害を受けているという連日の報道を受け、防災の重要性を改めて認識している。前回の区づくり推進市会議員会議でも伺ったが、５月14日の集中豪雨により日野中央で道路冠水が発生し、その後の６月27日には大雨の影響により芹が谷で民有地のがけ崩れが発生した。幸い人的被害はなかったが土木事務所、総務課、建築局をはじめとする関係部署が連携し、対応が行われたと伺っている。<br>　近年は局地的な豪雨が頻発しており、区民の安全・安心を守るためには災害発生時の初動対応や平時からの備えがますます重要になっていると考えている。そこで、区役所ではどのような体制で初動対応に当たっているのか改めて伺いたい。<br><br>加藤総務課長：がけ崩れ等の災害に関する通報を受けた際には、区役所が関係部局と連携しながら速やかに現地調査や情報収集を行い、被害状況の把握と安全確保に向けた初動対応に当たっている。芹が谷で発生したがけ崩れについては、区総務課が区役所における情報集約や関係部署との連絡調整を担うとともに、現地でも土木事務所や建築局職員、建設業協会加盟企業と連携しブルーシート設置などの応急対応にあたるなど初動体制を構築し、対応した。<br><br>安西議員：関係機関が連携しながら迅速に初動対応に当たっていることは理解した。<br>　一方で、がけ崩れが発生する箇所は民有地や道路用地など様々であり案件ごとに所管が異なることから、関係部局が緊密に連携して対応することが重要であると考える。先日の崩落箇所については、現在建築局において改善に向けた対応を進めていると伺っているが、市民から見ればどの部署がどのような役割を担っているのか分かりにくい面もあると感じている。災害発生時に円滑な対応を行うためには関係部局がそれぞれの役割を明確にしなが |

| | |
|---|---|
| | ら連携していくことが重要であると考える。そこで、崖防災における関係部局の役割分担について伺いたい。<br><br>加藤総務課長：土木事務所、警察、消防、建築局建築防災課など関連部局が連携をしながら、建築局建築防災課が中心となり作成したマニュアルに沿って対応している。道路や市有地に影響がある場合は道路管理者である土木事務所が安全確保や応急対応を行う。民有地のがけについては建築局建築防災課が所有者からの相談や改善に向けた支援などを担当している。区役所では防災担当を中心に情報収集や関係部署との連絡調整を行うとともに、二次災害防止のための応急措置などを担っている。今後も関係部局が緊密に連携し、がけ地の安全対策と災害時の迅速な対応に取り組んでいきたい。<br><br>安西議員：マニュアルに基づき、関係部署が連携して対応していることは確認できた。<br>　一方で、先日のがけ崩れが発生した時には、私自身が状況を確認しようとした際、どの部署へ問い合わせればよいのか分かりにくいと感じた。地域住民が安心して相談できるよう、相談先や対応の流れを分かりやすく整理しておくことが重要であると考える。そこで、区内でがけ崩れが発生した際の対応フローを明確化するべきと考えるが、区の見解を伺いたい。<br><br>栗原区長：近年はゲリラ豪雨や雷雨といった局地的な大雨が増加しており、土砂災害リスクが非常に高まっている。区民の皆様の安心・安全を守るうえで区役所が初動時にどのように対応を行い、どの機関に連絡し、どのように情報共有を行うか整理しておくことが重要であると考えている。区役所と関係機関の役割分担を踏まえながら、がけ崩れ発生時の連絡体制や対応手順を改めて確認し、円滑な初動対応に入れるよう取り組んでいきたい。<br>　なお、がけ崩れ発生時に区民の皆様からお問い合わせいただく際は区の警戒本部や土木事務所、警察、消防へご連絡いただければどの機関に情報が寄せられた場合でも区の警戒本部へ情報が |

| | |
|---|---|
| | 集約される。共有された情報を踏まえ、区の警戒本部がマニュアルに沿って適切に対応を行う体制となっている。<br><br>安西議員： 情報が区に集約される体制は、区民にとっても分かりやすい。マニュアルに基づき、関係部署が連携して対応していることも確認できた。引き続き徹底いただきたい。<br>　また、土砂災害でだけでなく浸水以外の備えも重要な課題となっている。水防災対策については、５月14日のような想定を超える豪雨に対してはハード対策だけでは限界があり、ソフト対策の充実が重要であると考えている。前回の区づくり推進市会議員会議での質疑を受け、河川水位情報へアクセスしやすい港南区独自のチラシを作成し、出水期前に関係地域へ配布していただいたことは評価しており、感謝申し上げる。<br>　また、浸水が発生した場所の近くに仮設の土のうステーションを設置していただいたが、ゲリラ豪雨のような急な降雨の場合は土のうを取りに行く時間的な余裕がないという課題もある。家庭にあるゴミ袋を活用した水のうの作成など、自助による浸水対策として実践できる手法もあることから、こうした知識や手法を広く周知していくことが重要であると考えている。<br>　そこで、水防災対策の市民への情報提供について更に効果的な取組を進めていく必要があると考えるが、区の見解を伺いたい。<br><br>加藤総務課長：近年、短時間の集中豪雨が頻発しており、被害を軽減するためには、事前の備えを進めるとともに、いざという時に一人ひとりが自らの判断で適切な避難行動をとれることが重要であると認識している。そのため区では、広報よこはまや区公式X、区連会への情報提供、学校での防災授業などを通じて、ハザードマップの見方や風水害時の避難場所、情報収集ツールに関する周知を行っている。特に「横浜市避難ナビ」は携帯アプリからハザードマップや避難指示の発令状況など各種防災情報を確認できることから、その機能や利用方法について様々な機会を捉えて周知し、必要な時に適切に活用いただけるよう取り組んでいる。事前の備えや適切な避難行動につながるよう、引き続き情報発信に取り組んでいきたい。 |

| | |
|---|---|
| | 安西議員：避難ナビは現在地が今ゲリラ豪雨時にどのような状況なのかすぐに分かるようになっている。内水ハザードマップを紙版で配っているが、細かすぎて見えないという方もいる。SNS等を上手に使える方も増えてきているので是非活用していただきたい。<br>　また、横浜市には感震ブレーカーの補助制度があるが、区民の方の認知度が低い。先日の茨城の震度５弱の地震後、「腰が曲がってブレーカーに手が届かない」といった方に対し、制度のご案内を数件提示した。「港南区安全・安心情報メール」の直前、直後で、あるいはホームページで、市の補助制度や事業を紹介することも効果的ではないかと考えるので検討をお願いしたい。<br>　次に、前回の区づくり推進市会議員会議で、５月14日の浸水被害発生を受け、効果ある減災対策について下水道河川局と検討していくと答弁されたが、その後の検討状況について伺いたい。<br><br>高野土木事務所副所長：局との対策検討会議は、第１回が６月25日に開催され、浸水状況の共有や原因と思われる要素、検討の進め方などを議論した。第２回が９月２日に開催され、今後の対策について議論した。対策としては、日野中央三丁目の床下浸水箇所前の左岸側護岸の増し積み、日野宮ノ前公園に仮置きしている土のうステーションの恒久化を年度内に実施する予定で進める。５月14日の豪雨が横浜市の目標整備水準を大きく上回る記録的な豪雨であり、目標整備水準を超える降雨に対してはハード対策だけでなく自助や共助をサポートするようなソフト対策も必要であるという議論もされたところであり、引き続き検討していく。<br><br>安西議員：地域の不安が軽減されるよう、着実に進めていただきたい。<br>　先月、神戸市に密集市街地の災害対策の関係で視察を行った。神戸市では「防災福祉コミュニティ」という自主防災組織を地域に設立しており、一部では小中学校と連携した「防災ジュニアチーム」を設立し、チーム同士が相互に交流しながら啓発を行う取組を行っている。このように日頃から連携ができていれば、先ほど答弁にあった土のうステーション一つとっても、中学生と連携し「ここに土のうを持っていってほしい」といった発災時の具体 |

| | |
|---|---|
| | 的な対応のイメージにもつながる。<br>　また、神戸市では在宅避難者、避難所避難者、車中泊避難者の状況をどのように把握しているか尋ねたところ、正直なところすべてを把握することは難しく、一度避難所に来てもらい、避難者の情報を把握することで物資の提供などを一括して行うようにするしかないと考えていると伺った。港南区においても地域防災拠点に「避難してください」と呼びかけるのではなく、地域防災拠点で自身の避難状況を伝えてもらい、その情報をDXの活用によって一元的に把握することで、救援物資の配布や避難生活の長期化に伴うニーズを把握できるような形を取らなければ、ハードだけ整備しても実際にそこに何人いるのか誰かが確認しなければならない状況では絵に描いた餅に終わってしまうと強く感じた。<br>　最後に、横浜グリーンエクスポに関連して伺いたい。<br>　先ほど報告事項において開催に向けた区の取組について説明いただき、これまで地域や企業、区役所が連携した様々な機運醸成の取組が進められてきたことが分かった。今後は開催が近づく中でこれらの取組をより一層広げていくことが重要になると考えている。そこでまず、これまでの取組による成果や手応えについて伺いたい。<br><br>田中区政推進課長：港南区では区民との協働、地元企業との協働、公共の取組の３つを柱として機運醸成に取り組んできた。これらの取組などにより、多くの区民の皆様に横浜グリーンエクスポを知っていただく機会を創出することができた。認知度については市で実施したインターネット調査では約80％、開催したイベント参加者へのアンケートでは約90%と高い水準であり、地域・企業・区役所が連携した取組が着実に認知度向上につながっているものと感じている。<br><br>安西議員：認知度向上から来場促進へと取組を発展させていく必要があると考えているが、開幕に向けて区として今後どのように来場促進を図っていくのか伺いたい。 |

| | |
|---|---|
| | 田中区政推進課長：今後はこれまで取り組んできた認知度向上に加え、エクスポ会場内の見どころやチケット販売情報等、来場につながる情報発信を強化する。具体的には、こうなん子どもゆめワールドにおいて電子チケット購入サポートのブース設置やトゥンクトゥンクの着ぐるみ出演を行うなど、来場のきっかけづくりを進めていく。引き続き、国際園芸博覧会協会や脱炭素・ＧＲＥＥＮ×ＥＸＰＯ推進局の取組を踏まえながら、協働のパートナーである地域団体や企業の皆様と共に、区民の皆様が横浜グリーンエクスポをより身近に感じ、来場につながるよう取り組んでいきたい。<br><br>田野井議員：区長より説明のあった令和９年度予算編成について、区職員が一つとなり、チーム港南で約21万人の港南区民のため、様々な分野に渡り予算編成に取り組まれていることに心から敬意を表したい。<br>　まず、安全安心まちづくり推進事業に関連して、高齢者の交通安全対策について伺いたい。<br>　区内の交通事故件数は減少傾向にある一方で、高齢者が関係する交通事故の割合は依然として高い状況にある。港南区では人口約21万人のうち、65歳以上の高齢者が約６万人を占め、区民の約３割が高齢者という状況。<br>　高齢化が進む中、高齢者の交通安全対策は重要な課題であると考えるが、港南区ではどのような取組を行っているのか伺いたい。<br><br>小島地域振興課長：港南区は令和７年上期の区内で発生した交通事故に占める高齢者が関係する事故件数の割合が50％と県平均の33.4％を10ポイント以上上回ったことから、令和７年９月に「高齢者交通事故多発地域」に指定された経緯もあり、高齢者への交通安全対策は重要であると考えている。港南区では、高齢者の交通事故防止を目的として、港南区交通安全シルバーリーダー連絡会と連携した啓発活動を行っている。交通安全シルバーリーダーは区内の62のシルバークラブに約270名おり、高齢者交通安全指導者としてシルバークラブ等で交通安全の声掛けや交通ルールの啓発 |

| | |
|---|---|
| | を行うほか、「港南ひまわり83運動」への参加など地域に根差した活動を進めている。こうした高齢者同士による声掛けや見守り活動が、交通安全意識の向上につながっているものと考えている。また、今年５月には、神奈川県警察音楽隊による「交通安全コンサート」を開催した。演奏を楽しんでいただくだけでなく、高齢者に多い交通事故の特徴や横断歩道の渡り方、近年話題となることが多い自転車利用時の注意点などを紹介し、交通安全について学んでいただく良い機会となったと考えている<br><br>田野井議員：地域で活動するシルバーリーダーの皆さんが、高齢者同士の声掛けや見守り活動を通じて交通安全意識の向上に取り組んでいることが分かった。<br>　こうした地域の活動に加え、区としてどのような交通安全対策を進めていくのか伺いたい。<br><br>小島地域振興課長：高齢者への交通安全対策として、啓発活動に加え、体験を通じて交通安全を学ぶ事業にも取り組んでいる。具体的には自動車学校の教習指導員による実車指導などを通じて、ご自身の運転技能や身体機能の変化を確認していただく「シルバードライビングスクール」を９月10日に開催する。また、交通ルールや事故防止について楽しみながら学べる体験型イベント「交通安全フェスタ」を12月８日に開催する予定。高齢者が関係する交通事故の防止に向け、シルバーリーダーによる地域での見守りや啓発活動とあわせて、こうした体験型事業を継続しながら交通安全意識の向上に取り組んでいきたい。また、交通安全意識の向上だけでなく、港南ひまわり83運動をはじめとする交通安全活動への参加は高齢者の外出機会や地域とのつながりを生み出すことにもなり、フレイル予防の観点からも意義のある取組であると考えている。<br><br>田野井議員：高齢者の交通事故防止には、区や警察だけでなく、地域で活動されている交通安全シルバーリーダーの皆さんの力が欠かせないことが分かった。 |

| | |
|---|---|
| | 高齢者の方で、黄色信号で停止しない方を多く見かける。また、自転車についても近年取り締まりが厳格化されているが、自転車に乗る方から「十分な指導や周知がないまま取り締まりを受けてしまった」という話も聞く。このように交通安全に関しては注意すべき点が数多くあるため、きめ細かな啓発や周知に取り組んでいただきたい。<br>次に、歩行者サポート事業について伺いたい。<br>港南区の居住環境は起伏の多い地形が多くあることが特徴で、区内には多くの階段が設置されている。一方、区内の高齢者の割合は18区の中で４番目と上位に位置しており、高齢者が日常生活や災害時の避難通路として、公道を安心して安全に歩くことができるよう階段への手すりの整備は重要である。<br>このような状況の中、本事業は港南区独自の取組として平成28年に始まり、公道に位置している階段を対象として着実に手すりの整備が進められてきた。<br>そこでまず、現在の手すりの設置状況について伺いたい。<br><br>高野土木事務所副所長：本事業は公道の階段を対象として、歩行者の方が安全に階段の上り下りができるよう手すりの新設や補修を行っている。手すりの新設にあたっては地元住民の方からのご要望を受けて整備を行ってきた。事業開始時点では多くの要望があり、土木事務所の職員が現地調査を行い、利用状況等を把握したうえで優先順位を付けながら計画的に設置を進めてきた。現在の設置状況については選定対象の階段４４１か所のうち、３６１の階段に対して手すりを設置しており、設置率は８６％となっている。現在、手すりのない８０か所については、いずれも地域の方から手すり設置の要望が無い箇所となっており、概成している状況。<br><br>田野井議員：区内には私道に位置する階段も多く存在し、高齢者をはじめ、多くの区民が利用する階段もある。事業の趣旨を踏まえると私道の階段についても整備を行っていくことが望ましいと考えるが、私道にも手すりの設置を行っていくことについて、課題も含め伺いたい。 |

| | |
|---|---|
| | 佐藤土木事務所長：本事業の趣旨を踏まえると、利用者が多い階段には公道・私道関係なく整備が必要と考える。しかし、私道における階段は急なこう配の場所や足をのせる踏み面が強固でない階段も存在するなど、技術面において既存階段の安全基準に関する課題や利用者の安全確保面で日ごろの維持管理や管理責任について整理する必要があると考えている。また、公費を投入するため階段利用者数や公共性も考慮する必要がある。現段階では課題や整理することもあるが、いただいた意見を踏まえ、私道においても事業を展開するための基準やルールなどの検討を進めていきたい。<br><br>田野井議員：区民が階段を安全に歩くことができるよう、是非早期に検討を進めていただきたい。<br>　最後に、地域福祉保健活動推進事業に関連して、地域福祉保健計画「港南ひまわりプラン」の推進について伺いたい。<br>　令和７年度末に策定した第５期「港南ひまわりプラン」を着実に推進していくためには計画そのものを知っていただくだけでなく、区民一人ひとりが地域活動や見守り・支えあいに関心を持つことが重要だと考える。そこで、港南区ではどのように「港南ひまわりプラン」を推進していくのか伺いたい。<br><br>近藤福祉保健課長：「こなちゃん通信」の毎月発行による広報、地域ケアプラザまつりでの啓発など、様々な機会を通じて第５期港南ひまわりプランの周知を進めている。特に「こなちゃん通信」は港南ひまわりプラン推進キャラクターである「こなちゃん」を活用しながら地域で行われている活動や地区別計画の取組事例などを分かりやすく発信するものであり、計画を知っていただくだけでなく、「身近な地域でこんな活動が行われているのか」と地域に愛着を持ち、「自分にもできることがあるのではないか」と感じていただくことを目的としている。また、港南ひまわりプランは区民の皆様をはじめ地域活動団体、事業者の皆様とともに計画を推進していくことが重要であり、防災や清掃活動、お祭りなど地域で行われている様々な取組を紹介することで活動の担い手の励みに |

| | |
|---|---|
| | なるとともに、新たな参加者や協力者の裾野を広げていくことも期待している。<br><br>田野井議員：「地域ケアプラザまつり」や「こうなん子どもゆめワールド」でアンケートを実施しているとのことだが、これらの機会を通じて得られた区民の声を今後どのように生かしていくのか伺いたい。<br><br>近藤福祉保健課長：第５期港南ひまわりプランを推進していくためには、地域で活動されている方々にだけでなく、幅広い世代の区民の皆様の声を伺いながら取組を進めていくことが重要であると考えている。そのため区では区内10か所の地域ケアプラザで開催されるお祭りにブースを出展し、港南ひまわりプランの周知と併せてアンケートを実施している。アンケートではプランの認知度に加え、困りごとがあった際の相談相手、隣近所との関わりや地域行事への参加状況などを伺っている。子ども向けには、何でも話せる人の有無や地域で挨拶できる人がいるかなどを尋ねている。これらのアンケートは、単に回答を集めることを目的とするものではなく、区民の皆様の地域とのつながりや意識の変化を把握し、プランの推進状況を確認するための貴重な機会であるとともに、プランそのものへの理解を深めていただく機会にもなっている。会場では職員がプランの内容を紹介しながら協力をお願いしており、区民の皆様との対話の場になっている。今後はアンケートや対話を通じていただいたご意見を丁寧に分析し、より効果的な周知啓発や地域活動への参加促進につながる取組を検討していく。また、12月に開催を予定している区民意見交換会「しゃべっCiao♪」においても議論を深めるための基礎資料として活用していく。<br><br>田野井議員：第５期港南ひまわりプランを推進していくに当たり、区長の意気込みを伺いたい。 |

| | |
|---|---|
| | 栗原区長：第５期港南ひまわりプランは、区民の皆様や地域団体、事業者の皆様と議論を重ねながら策定したものであり、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる港南区を目指すための大切な指針である。港南区の大きな強みは、自治会町内会をはじめ、多くの地域団体や事業者の皆様などがお互い温かく見守り、支えあい、大きくつながっていることと考えている。こうした港南区らしい安心して暮らせるまちを次の世代へ引き継いでいけるよう、第５期港南ひまわりプランを着実に推進していきたい。そのために、区として、引き続き地域の皆様としっかり向き合いながら、関係団体との連携を一層深め、「見守り・支えあい」の輪を広げていけるよう取り組んでいく。そして、港南区の強みである地域のつながりを未来へつなぎ、区民の皆様とともに、第５期港南ひまわりプランの実現に向けて全力で取り組んでいきたい。<br><br>田野井議員：行政だけでなく区民や地域団体、事業者、我々議員団も含め、さまざまな分野の方がワンチームとなり、ますますの港南区の発展を目指していきたい。<br><br>みわ議員：地域交通の関連で伺いたい。<br>港南区は山坂が多い地域であり、若い頃に坂の上に住み始めた多くの方が高齢期を迎えて厳しい状況となっている中で、地域交通の取組は重要である。<br>そこで、港南区における地域交通の取組状況を伺いたい。<br><br>田中区政推進課長：上大岡東地区は令和７年度に実施したアンケート結果では採算面で厳しいことが想定され、現在道路・交通政策局において今後の進め方について検討している。今年度の新規取組地区である芹が谷地区と下永谷地区については、６月から７月にかけて対象地域の皆様に制度の概要を説明した。地域の皆様の移動に関する状況をお伺いし、地域の皆様からは移動実態を把握するためのアンケート調査を実施するとのご意向をいただいた。現在は10月頃のアンケート調査実施に向けて地域の皆様と調整を進めている。日野南地区については、隣接する栄区において検討した |

| | |
|---|---|
| | 運行ルート案について、日野南地区内に停留所を設置するかについて地域の皆様とご相談している状況。いずれの地区についても、実証運行の早期実現に向けて、引き続き地域の皆様と対話をしながら検討を進めていきたい。<br><br>みわ議員：実証運行の実施に向けて、引き続き丁寧に対話を続けていただきたい。 |
| 備　　考 | |